

令和7年度学校評価報告書

令和8年(2026年)3月12日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌西高等学校学校長 相馬利幸

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1 働き方改革の推進
2 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着
3 魅力ある学校づくり
4 主体性や社会性を育む教育活動の充実

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議後の情報交換によって生徒理解に基づく協働が促進され、その結果、式典等の実施が概ね円滑に行われ、業務をスムーズに進めることができた。 各分掌において効率的な業務の進め方について確認しながら業務を遂行した。 各教科担任が指導と評価の一体化を目指し、自己研鑽に励み、効果的な教育活動の実践に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のご尽力の様子が明確にうかがえる。特別支援教諭との連携を図りつつ、生徒への支援の一層の充実を望む。 職員会議後の情報共有が機能し、学校行事の円滑な運営につながっている。振り返りの仕組みを継続することで、協働体制がより安定している。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議後に分掌及び学年で簡単に振り返りを行うことで、連携の迅速化と確実な情報共有を図り、スムーズな業務遂行を継続する。 教育課程や評価の在り方について校内研修を実施し、観点別ルーブリックと事例を共通化して授業改善を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じた対応が重要であると考えている。これまでと同様に丁寧な生徒支援を継続されたい。 生徒の実態に応じた指導改善が進み、部活動や生徒会活動の活性化も見られる。多面的な生徒理解を深める仕組みづくりが今後の課題と思われる。
基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> 各教科担任が生徒の実態に応じて指導方法について研修を積み重ね、学習ニーズに適応した授業展開に努めた。 放課後の部活動や生徒会の主体的活動が活性化した。 定例職員会議後の生徒情報の共有は有効であった。 個別の保健指導や相談活動を継続的に行うことができた。 必要に応じてスクールカウンセラーと連携し、丁寧な指導に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じた対応が重要であると考えている。これまでと同様に丁寧な生徒支援を継続されたい。 生徒の実態に応じた指導改善が進み、部活動や生徒会活動の活性化も見られる。多面的な生徒理解を深める仕組みづくりが今後の課題と思われる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援委員会等と協働し、多面的な視点で生徒理解を深められるテーマを分掌が継続的に提示する仕組みを整備する。 保健講話等の全体指導と個別相談を両輪で運用し、特別支援教育コーディネーターや養護教諭を中心に支援を強化するとともに、スクールカウンセラーとのさらなる連携を図る。 	
魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議委員の意見を踏まえ、改善を進めてきた。 同じ情報発信でも受け手により満足度が異なることが明らかになった。 PTAや輔仁会から多大なるご支援をいただいた。 教職員個々の規範意識は定着している。 教育課程については、法令に従って見直しを進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援団体との関係が良好で学校の強みとなっている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> PTA行事後、速やかにホームページ等で教育活動の現状を定期発信し、協力体制を強化する。 進路情報等の発信については、情報の量、発信のタイミングや分かりやすさについて見直し、受け手の満足度向上を目指す。 職員室内の心理的安全性を確保するとともに、規範意識の維持向上に向けて啓発を続ける。 生徒や学校の情報を様々な方法で発信し、家庭や地域との連携を強化する 	
主体性や社会性を育む教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルスキルトレーニングや進路ガイダンス等を通じて自己理解、他者理解の機会を提供することができた。 自己肯定感や自己調整力は個人差が大きく、継続的な関わりが必要である。 生徒、保護者、教職員の評価から授業づくりは概ね良好で、定例職員会議後の情報交換が授業設計に有効だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自己理解や他者理解を深められる機会が十分に確保されている点は評価できる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活において様々な課題を解決する経験を積ませることで、自己理解、他者理解を深めさせる。 各分掌が外部資源を整理、調整し、日常の学級指導へスムーズにつなげる教材の提供を続け、生徒の自己調整力を向上させる。 定例職員会議で個別支援の実態を共有し、学年、教科を越えて助言をクロスアップする仕組みを継続する。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> 学校Webページで公表する P T A 総会等の機会を通じて説明する。 	